

いうた。號は誠齋。初め東遊して佐藤一齋に學び、陽明學を能くし、歸藩の後明倫堂督學となつた。慶應三年卯辰山開拓の事を督し、一時開拓山人又は夢香と號したこともある。薩藩の後官に就かず、家に在りて徒に授け、人之を稱して小立野の聖人というた。明治十六年福井に赴き教鞭を執り、二十六年五月其の地に歿。享年七十。

ナイトウソワン 内藤宗安 諱は亨。號は蘭洲。その父泰啓は越中奈古浦から出て、明和四年加賀藩の侍醫となり、三十人扶持を受けた。宗安も亦京に赴いて醫を齋靜齋・畑黃山に習ひ、天明二年御醫者に列し、別に十人扶持を賜はり、四年父の歿後その俸を繼ぎ、七年二百石を受け、寛政三年五十石を増し、四年藩校の醫學教授を兼ね、享和三年又五十石を加へ、文化四年十一月九日五十二歳を以て歿した。

ナイトウトクアン 内藤德庵 諱は忠俊、飛騨守と稱した。その如安と稱するは耶穌教名のドン・ジュアンから採つたのである。父源左衛門は織田信長に仕へて丹波に封ぜられ、祿二萬石を食んだ。德庵父の後を受けたが、次いで野處すること數年、又小西行長に仕へ、文祿の役に従ひ、行長の明と和を議するに及び、小西如安の名を以て屢使者の任に當つた。後德庵また加藤清正に轉じて五千石を受けたが、清正は德庵の耶穌教徒たることを好まずして之を逐うたから、慶長七年高山長房の紹介によつて前田利長に臣事した。(この事を慶長元年に在ると傳へるものもあるが、それは誤であらう。)その封祿は四千石とも二千石とも記される。然るに十八年家康

は外教禁止の令を發した爲、德庵はその子好次と共に捕はれたが、その事を報じた前田利常の使札は、十九年正月廿六日を以て駿府に達して居る。德庵等皆妻子を携へて金澤を發し、遂に呂宋マニラの郊外サンミゲル村に移り、こゝに止ること十三年にして寛永三年の末に歿した。

ナイトウトモマサ 内藤知政 通稱恒丞。十郎兵衛。貞享三年父造酒正眞の遺知三百石を襲ぎ、寶永五年因幡御前附御用人として五十石を加へ、享保九年同御前物頭並に進みて更に百石を増し、十九年御免、元文四年六十二歳を以て歿した。

ナイトウマサカツ 内藤政勝 通稱市丞。正保三年初めて前田利常に仕へ、三百石を領し、貞享二年歿した。

ナイトウヨシツグ 内藤好次 通稱米女。耶穌教名ドン・トメー。初め父德庵と共に加藤清正に肥後に仕へたが、外教徒たるを以て逐はれ、慶長七年前田利長に來り仕へて祿千七百石を受けた。(この事を慶長元年に在るとする説は採らない。)然るに十八年切支丹の禁ぜられた時、好次は轉宗を肯せずして父と共に捕へられ、翌年呂宋に送られた。

ナイホウ 内方 珠洲郡細屋の内の小字。
ナイヨウカタ 内用方 加賀藩の兵制軍備に關する一切の事務を掌る所を内用方というた。蓋し軍政は専ら機密に涉るが故にこの稱があつたので、年寄・家老中の之に主任する者を御内用方主附というた。

ナカ 中 能美郡輕海郷に屬する部落。
ナカ 中 石川郡五ヶ庄に屬する部落。往昔は岸川の右岸に在つて、後の金澤傳馬町・法

船寺町・蘭田町・物吉町に亘る大村であつたが、市街の擴張するに及んで、その左岸なる今の地に轉じたといふ。明治に至り、中に屬して岸川の對岸にある向中を分割獨立せしめた。

ナカ 中 石川郡明勝の内の小字。

ナカ 中 石川郡村井の内の小字。

ナカ 中 河北郡金浦郷に屬する部落。明治中改めて上中とした。

ナカ 中 河北郡井上庄に屬する部落。明治中改めて下中とした。

ナカ 中 羽咋郡上棚の内の小字。

ナカ 中 鹿島郡澤野の内の小字。

ナカ 中 鳳至郡三井郷に屬する部落。

ナカ 中 鳳至郡輪屋の内の小字。

ナカ 中 鳳至郡の舊邑名。天正十年十月十日附前田利家のお岸中村高うこ(高右近)に興へた扶持宛行狀がある。お岸は阿岸郷で、中村は後の小山であらう。

ナカ 中 珠洲郡若山庄に屬する部落。村名由来書に、『此村若山庄二十ヶ村之中に有之村に付、則中村と唱申由申傳候。』とある。

ナカ 中 珠洲郡長橋の内の小字。

ナガイケ 長池 石川郡横江郷に屬する部落。

ナカイシカハクン 中石川郡 岸川・淺野川の間に狹まつた地域は、初は加賀郡の一部であり、中頃は河南郡といはれ、後には石川郡に併せられたが、特に中石川郡といふこともある。天保五年の記録に中石川郡二ヶ屋と見えるから、餘程後までもさうした呼び方があつたと見える。

ナカイヅミ 中泉 羽咋郡宮木院に屬する部落。

ナカイヅミスケノフ 中泉祐信 一學と稱した。父は恭祐。元祿十六年前田綱紀に仕へ、俸二十人扶持を賜はり、寶永二年父の祿二百石を襲いだ、元文元年歿。

ナカイヅミヤススケ 中泉恭祐 通稱六右衛門。字は守靜。大和の人。木下順庵の推薦に依り、寛文六年十二月前田綱紀の備員に列し、祿二百石を賜はり、寶永二年八十二歳にして致仕し、二十人扶持を受け、子祐信その後を襲いだ。

ナカウラ 中浦 鹿島郡鶴浦の内の小字。

ナカウラ 長浦 鹿島郡熊木院に屬する部落。久藤加夫郡阿良加志比古神社藏貞應三年の立券狀に、長浦一字とあるものはであらう。

ナガエ 長柄 ↓オナガエ 御長柄。

ナガエ 長江 ↓ナガキザカ 長井坂。

ナカエガハ 中江川 江沼郡岡領の草谷から出で、別には上福田領畑の生水から出たものを合はせ、極樂寺・上福田・下福田を經、三ヶ村領矢義の水門に至つて大聖寺川に注ぐ。

ナカエガハ 中江川 鳳至郡石休場の内の小字。

ナガエゴウ 長江郷 江沼郡の古郷名で、和名抄に『長江、奈加江』とある。今永井のあるのは、その遺名であらう。

ナカエバンライ 中江晚嶺 鳳至郡輪島の人。名は伊兵衛。梅室に俳諧を學び、松濤・白翁・公樹園と號し、その著に細道の乘・宰府紀行・吉野行脚・更科の杖等がある。安政二年八月十二日歿。享年六十八。その追悼句集を三富集といふ。晩嶺の家は漆器を業としたが、皆て家具無器講を營み、輪島塗の販路を擴張